

# 分科会D・アートNPOリンク企画セッション プロフィール・資料

パネリスト・プロフィール[五十音順・敬称略]

上田假奈代 うえだ かなよ

詩人、NPO法人こえとことばとこころの部屋代表、言葉合同会社代表  
1969年生まれ。3歳より詩作、17歳から朗読をはじめ。92年から障がいをもつ人や社会人、子ども対象の詩のワークショップを行う。01年「詩業家宣言」を行い、全国で活動をつづける。03年ココラムをたちあげ「表現と自立と仕事と社会」をテーマにホームレスや高齢者、ニート、教育、環境など社会的な問題にも取り組む。詩写真集「うた」を発表。

サイト<http://www.kanayo-net.com>

ブログ<http://booksarch.exblog.jp/>

大谷 燠 おおたに いく

NPO法人DANCE BOX Executive Director

1991年から2001年までTORII HALLプロデューサー。1996年「DANCE BOX」を立上げ、ジャンルを超えたコンテンポラリーダンスの公演・ワークショップを年間約30本企画制作する。2002年DANCE BOXをNPO法人化。大阪・新世界フェスティバルゲート内に「Art Theater dB」を開設し、アーティストの育成と地域社会とアートの新しい環境づくりに力を注ぐ。近畿大学国際人文科学研究科講師。関西社会経済研究所文化アドバイザー。

細谷正人 ほそや まさと

ランドーアソシエイツ/TOKYO シニア・コンサルタント

法政大学工学部建築学科卒業後、大手広告会社を経て、2002年ランドーアソシエイツに入社。これまでの主な仕事として、森永乳業「森永のおいしい牛乳」「Mt.Rainierカフェラッテ」、オリエンタルランド「東京ディズニーシー」、富士ゼロックス「アペオス Apeos」、大塚製薬「ソイジョイSOYJOY」、ポッカコーポレーション「じっくりコトコト煮込んだスープ」、味の素「カプシエイトナチュラ」、敷島製パン「Pasco」、ホーユー「hoyu」など、企業及び商品ブランドの構築、ネーミングからデザインまで幅広いクリエイティブ視点でのブランド戦略を行っている。

進行・プロフィール

甲斐賢治 かい けんじ

NPO法人 記録と表現とメディアのための組織[remo]理事

NPO法人 地域文化に関する情報とプロジェクト[recip]理事

NPO remoでは“個々人がメディアを活用し、自らの環境を作り出す力の創出”を、NPO recipでは“文化の地産地消サイクルの起動”を目標み、さまざまな場やメディアづくりに勤しむ。“ここに”、“個々”が持つ多様な価値判断から沸き立つダイナミックな化学反応がおきれば、有機体である僕らならきっと精神まで活性するに違いない。

スティバルゲート、その背景

## topic 1 ～フェスティバルゲート周辺は、大都市大阪の縮図

フェスティバルゲートは、大阪市浪速区と西成区の境目にあります。最寄り駅は、市営地下鉄動物園前駅(御堂筋線、堺筋線)、JR新今宮駅、南海新今宮駅などがあり、大阪中南部の交通の要所となっています。北側には、通天閣でおなじみ「新世界」があります。下町テーマパークのような街には、串カツ屋が軒を連ねています。そのさらに北側に隣接するのは、秋葉原と並び称される電気の街「日本橋」です。秋葉原と同様、家電やパーツの店とオタク向けショップがひしめいています。そして、南側の西成区に入れば、西日本最大のドヤ街「釜ヶ崎」があります。通天閣や電気街など、大阪らしい魅力の集積が集積している一方、低所得者層が多いこと、商店街の空洞化が進んでいること、そして少子高齢化といった都市の社会問題。この相反する要素が集積しているのが、フェスティバルゲートの周辺地域です。

## topic 2 ～新世界アーツパークとは

2002年にスタートした「新世界アーツパーク」事業は、大阪市の現代芸術政策です。フェスティバルゲート内の空き店舗を活用しアートスペースを行政が設置し、その運営をアートNPOに委託するという“公設民営”方式で運営されている、アートセンターです。現在、“コンテンポラリーダンス”“メディアアート”“実験音楽”“ことばとコミュニケーション”の4つのアートNPOがそれぞれスペースを運営しています。現代芸術の発信、育成、国際交流などの活動はもちろんのこと、地元地域へ向いてのアートプロジェクトを実施するなど、その活動の幅は広がり続けています。昨年には、「新世界地域」と「日本橋電気街」において、アートフェスティバル『ビッグ盆!』を実施。42年間途絶えていた新世界の盆踊り大会を復活させるとともに、4つのNPOがそれぞれの得意技をもって、地域で展覧会やワークショップを開催しました。ところが、拠点であるフェスティバルゲートが、今年7月に体制変更をすることから、その時点での退去を余儀なくされています。そこで4NPOは「未来計画実行委員会」を結成。これまでの経過、すなわち行政との協働事業であったことを踏まえ、この問題を芸術文化政策のいち事例としてオープンにしていこうと、2005年に連続シンポジウムを開催してきました。

## topic 3 ～フェスティバルゲートの不安定さ

1997年にオープンした、複合型遊園地「フェスティバルゲート」は、大阪市の負の財産の象徴のような存在です。当初は「土地信託方式」で運営されていましたが、2004年に破綻。その後「マスターリース契約」を前提としたコンペによって、企業連合体が再生にあたりますが、これも頓挫してしまいます。

こうして二度の失敗を経て、現在は、元の持ち主である市交通局が直営の形をとっていますが、運営すれども経営せずの状態、残留しているテナントは、総床面積のわずか10%程度です。昨年2006年9月に、大阪市が外部委員を招いて開催した「あり方検討会議」において、7月にちょうど10周年を迎えることを機に、「売却」か「暫定的公共利用」のいずれかを選択するよう示されました。これを受け市交通局は、「公共利用案」のコンペを実施すべく、今年1月に要項を発表しました。